



第173号

編集発行

愛知学院大学

事務局 庶務課

☎ 470-0195

愛知県日進市岩崎町

阿良池12

電話 ☎ 0561-73-1111(代)

「21世紀の大学の 教育内容の充実を」

学院長 小出 忠孝

新年明けましておめでとうございます。平成23年の新春を皆様にはお健やかに迎えられることと、心よりお慶び申し上げます。

愛知学院は本年創立135周年を迎え、中部地区で最も古い歴史と伝統をもつ私学であります。大学は開学57年



ですが、将来の高等教育の重要性を予見して、戦後東海地区でもっとも早く新制大学を創設し、以来私立大のリーダー校となつています。現在私は日本私立大学協会の全国の副会長、中部の支部長に選任され、全国の私立大のリーダーの一人として私学のため努めています。本学は現在8学部17学科、大学院9研究科、短大部に学生1万3千名を擁する中部地区で最大級の規模と内容を誇る私立の総合大学となつており、社会的責任は極めて

て大きいのであります。

「高等教育の重要性」

現在わが国では人口・産業・社会の各構造が大きく変化している上、世界的な経済不況の波に見舞われ大変厳しい状況に陥つています。しかし社会は本格的知識基盤社会に移行しつつあり、高等教育を受けた人材の必要性は益々大となつています。質の高い教育により豊かな教養と高度の専門的能力(学士力)を身につけた人材が、益々重要とな

り、さらに高等教育の70%を占める私立大学の責任は非常に大となつています。しかし近年の18才人口の減少と大学新設ラッシュが大学全入時代と学生の学力低下を招来していると言われています。この様な大学の質の低下に対し、文科省の中央教育審議会では「学士課程教育の構築に向けて」の答申を発表し、各大学が(1)学位授与(2)教育課程の内容・方法(3)入学者受入れについての三つの方針を明確にし、卒業生の学士力の強化のため教育内容の充実・向上に努める様に強く要請しています。

「教育情報の公表」

さらに中教審は引続き「中・長期的な大学教育のあり方」について次々と検討結果を発表し、各大学に多様なニーズに対応する大学教育の質の向上のため、「公的な質保証システム」の構築と、教育情報、財務状況等の一層の公開を要請しています。教育情報については学生がどの様なカリキュラムを通じて、どの様な知識・能力を身に付けることが出来るかについて公表し教育力の向上を図ることが、努力義務化されました。これらの情報はすべてホームページ上に発表することが求められ、誰もがすべての情報を取得出来る様に要請されています。各大学が入学者数、留学者数、就職者数、授業計画等、大学の実態を発表する事により、従来の偏差値のみで大学のレベルが評価されている現状を一新させようとするものです。さらに公開の不充分な大学は国からの補助金が減額される様になり、弱小大学には厳しい状況となります。

「就職氷河期の再来」

文科省と厚労省の調査によると、今春大学卒業予定者の就職内定率は昨年10月で57・

6%と前年比4・9%下回つています。就職氷河期と呼ばれ2000年前後の60%台を下回り、1996年以降最悪であります。また地域別内定率で中部地区は51・9%と前年比9・5%減で、九州地区と並んで全国最低となつて

「教育環境の充実」

本学は昨年学生会館に次ぎ、けやきホールを完成、各種レストランがオープン、学生のキャンパスライフを快適にしました。また昨夏一号館前に教学センターが完成、学生に最も必要な教務部と学生部がキャンパス中央に移転、学生の利用が大変便利となりました。楠元校地では四号館の改築工事で、完成後は薬学部の大学院研究室、専門学校、教室、食堂等が整備されます。また末盛校地では北側の隣地を利用し病院及び臨床関係教室の増強を検討中ですが、さらに現北館の耐震リニューアル工事という大問題をかかえ考察中です。

「私学を巡る厳しい環境」

現在わが国は18才人口が120万人へ減少する中で、大学は250校増加のため大学全入時代を迎え、さらに志願者が東京、関西の大規模校に集中するため217校(38%)が定員割れとなつています。この様に私学を取巻く厳しい環境の中で大学として最も重要な事は、学生にとって「魅力ある大学」、「満足出来る大学」にする為、教育内容を充実強化する事です。そのため全教職員が私学危機の意識を持ち大学教育の充実強化に努め、この厳しい時代を切り抜ける事が出来る様、年頭にあたり全教職員の一層のご協力をお願いする次第です。

「熱い心」をもて！

後援会 会長 青山 稔



新年明けましておめでとうございます。大学教職員の皆様方、大学後援会の皆様方に於かれましては、輝かしく新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

本年は、長年、学院長・学長を兼任され、本校の発展・躍進に多大なご功績をおさめられました小出忠孝学院長先生から、大学学長を大野榮人先生に引き継がれ、迎えられ

る初めての新年であります。大野学長先生には、少子高齢化に伴い18歳人口減少の一途を辿る大変厳しい社会情勢の中、大学の更なる発展・躍進に一層のご尽力を頂けるものと心よりご期待申し上げます。

大学後援会と致しましては昨年5月の総会で決議頂きました事業を順調に進めてきております。6月から7月にかけて、後援会のメインの事業でもあります支部懇談会を、全国22の地域で開催させて頂き、各支部長様、副支部長様をはじめ関係各位の方々のおかげをもちまして非常に多くの会員の皆様方にご参加頂き、実に多岐支部懇談会を開催することが出来ました。

支部懇談会で皆様からご拝聴致しましたご意見、ご要望等は、引続き大学側と協議いたします。

で学生生活を送ることが出来ますよう生かしていきたいと思っております。

そのほか、クラブ助成、設備助成。学内緑化事業に対する助成。または不況の中、学費支弁者の経済的理由で休退学を余儀なくされる学生に、応急的に学業継続を支援する助成。奨学金制度に対する助成。災害共催会への助成。本山参禅への助成等々、学生の為に一層充実した各種助成を今後も行っていくたいと思っております。

昨年は、プロ野球では中日ドラゴンズがリーグ優勝、サッカーでは名古屋グランパスの初優勝。この名古屋の町が熱く熱く燃えました。しかし一方では、空前の大不況の中、就職氷河期に入つてしまいました。昨年の10月現在、今年の3月卒業する学生の就職内定率は57・6%と過去最低のこと。めまぐるしく変化する就職戦線に戸惑う学生諸君も多いと思われまふ。こんな時こそ学生・大学・後援会が一枚岩となつて苦境に立ち向かつて行かなければいけません。

学生諸君には何事にも負けない「熱い心」を。大学には学生の目線での適切な指導が求められ、我々後援会は学生達が頑張れる環境作りを。皆が熱い志を持った愛知学院であらねばなりません。

皆様にとってすばらしい年になりますよう心からお祈り申し上げます。新春のご挨拶いたします。



賀正

建学の精神に基づく 本学の教育の在り方

学長 大野 榮 人

謹んで新年のお慶びを申し上げます。平成23年の初春をお健やかに迎えになったことと、心よりお慶び申し上げます。

新春を迎え、心を新たにしたい。大学の運営に取り組まなくてはならないと覚悟をいたしております。

さて、私立の大学の特色を一言で言えば、建学の精神に基づく教育が行われているということに尽きるでありましょう。しかし、建学の精神が

本学の教職員や全学生に十分理解されているか、といえは否定的にならざるを得ないであります。建学の精神のみが一人歩きするのであれば、本学の教育の目的そのものが不明確であると言わなくてはなりません。

改めて、本学の建学の精神である「行学一体・報恩感謝」に基づく教育の在り方を考え、みることにはしたいと存じます。

一、建学の精神の成立背景
本学は、明治9年(1876)曹洞宗専門学校として発足しました。本学の建学の精神は、明治初期の時代背景のもとに成立したと考えられます。

明治政府は神道を国教化するため、明治元年(1868)3月に「神仏分離令」を発令し、同年より日本各地で仏教を弾圧する「廃仏毀釈」が行われ、仏教寺院が破壊されました。従来、国家によって擁護された仏教教団は、かつて経験したことのない徹底し

た弾圧を受けたのです。もちろん曹洞宗も例外ではありませんでした。

しかし、この「神仏分離令」は、維新期のめまぐるしい政治的転変にもかかわらず、仏教本来の姿を取り戻し、近代宗教として脱皮し、仏教者自身の反省を促す絶好の契機と捉えた人たちがいました。その人たちは政治的弾圧に決して屈することなく、大胆な新仏教運動を展開したのであります。

曹洞宗からも原担山(1819-1892)・大内青巖(1845-1918)・大道長安(1843-1908)などが新仏教運動を展開した結果、僧侶としての自制を促すとともに、出家集団から在家集団への在るべき方向性を示唆したのであります。

それが本学の建学の精神「行学一体・報恩感謝」に結実したと云うことができます。

二、建学の精神の意味と目的
本学の建学の精神「行学一体・報恩感謝」の意味することと、教育の目的を考えてみたいと存じます。

「行学一体」の「行」とは、実際に実践し実行するということ、身体を磨いていくことです。実践し実行するためには、その根拠となる智慧が必要で、「学」とは、学問・研究に打ち込んで智慧をつける心で磨いていくことをいいます。「行」と「学」とは、丁度、車の両輪のような関係です。学だけではなく、それを実行しなければ、「行学一体」ということはできません。

狭義には、大学の講義と演習の関係であり、教養課程の基礎と専門課程の応用ということになります。

広義には、日々の学生生活の中で、身と心を磨いていくために、真摯に学問・研究に取り組み、学んだことを即実行して、自己の変革を遂げることをいいます。

人間には、誰にも無限の能力が与えられているのにも関わらず、努力を怠り「自分は駄目な人間である」と、自分が自分にあきらめている人がいます。生きるということとは、努力をするということです。

生涯、努力をし続けることが「行学一体」に他なりません。「報恩感謝」は、私のこの命が与えられ、自然の力や様々な方々の恩恵を受けて、この命が維持されています。感謝の心を持って生きることによって、人を思いやる心を育んでもらえます。感謝の心を忘れないで、人のために何ができるかを模索し、実行することによって、器の大きな人間になることができます。

世界には、衣・食・住がなく、今日一日を生きていくことができない多くの人たちがいます。人の救済者になることで、自己を磨いていくことが、「報恩感謝」なのです。

「行学一体・報恩感謝」を今の言葉で言えば、「自己の人間性を確立するため、学び行動する。人生の生きる指針を見出す。」というように理解していただきたいと思います。

三、本学の教育の在り方
本来の仏教の教えは、決して閉鎖的なものでなく、一人ひとりがもっている無限の可能性に挑戦することを教えるとともに、自我から自己を開放して、「正しい」ものの見方や考え方を教示します。

本学は正しく大学運営がなされているのでしょうか。様々な問題が発生するということは、正しく運営されていないことを意味します。本学の正常化に向けて様々な点検と取り組みをしていかなくてはなりません。

今日、文部科学省から「教育の質の保証(教育力)」「初等教育」「キャリア教育」「学士力の確保」「評価システムの強化」「人材育成機能の強化」「大学の教育のグローバル化」「学生の学習意欲向上への強化」「社会が求める人材の育成」「大学の特色・個性化」「研究・教育拠点の形成」などの課題が課せられ、私学助成は削減され、競争的資金配分が導入されました。

これらの問題に対応するためには、教職員の意識改革はもろもろ必要ですが、それだけではどうすることもできません。そのためには細分化された制度改革が進められなくてはなりません。

それらの全てを教務委員会やFD委員会のみでやることは限界があります。

実行している事項もありますが、いくらか部分的に実行しても、全体から見たときに相互が矛盾して実現できない場合があります。

そのためには、具体的に大学改革の長期・短期計画を立案し、実際に実行されたか否かを検証する部署とシステムを構築していかなければならないと考えております。

明治初期に曹洞宗の心ある人達が、新仏教運動を起こし、それを建学の精神としている本学は、明治の先人達が仏教を再興したと同様に、大学改革に取り組みでいかなければならないと考えております。

皆様のご指導ご協力を心からお願い申し上げます。

歯学部
創立50年記念事業を開催



平成22年11月27日(土)に愛知学院大学歯学部創立50周年記念の記念講演会、記念式典、祝賀会がメインテーマ「50年の報恩が輝く未来を創造する」を掲げ名古屋観光ホテルにて開催された。

記念講演会は、午後3時からホテル2階の曙の間で行われた。講演者は、辻孝教授(東京理科大学総合研究機構)で、演題は「未来の歯科治療を創造する歯科再生医療」研究の現状と将来展望」であった。

再生医療は、疾患や障害により部分的に損傷した組織の再生に向けて「幹細胞移植療法」を中心に幅広い医療・歯科領域において臨床研究が始まっており、歯科では歯周病治療や歯髄再生治療の開発が進められている現状について話された。また、未来の歯科治療としての歯科再生医療の実現に向けた研究戦略とその進展についての研究成果を中心に詳細に解説された。さらに、歯科再生医療の将来展望と実現の可能性について示唆に富んだ大変興味深い講演会が展開された。

引き続き午後5時から記念式典が曙の間で行われた。式典に先立って、愛知学院大学グリークラブにより四弘誓願の斉唱があった。

小出忠孝学院長、大野榮人学長、野口俊英歯学部部長(50年記念事業実行委員長)の挨拶の後、来賓の中原泉先生(日本私立歯科大学協会会長、日本歯科大学学長)、江藤一洋先生(日本歯科医学協会会長)、五十里明先生(愛知県健康福祉部健康担当局長)、井上峰雄先生(愛知学院大学歯学部同窓会長)の順にご挨拶いただいた。

メインテーマの表彰に移り、本学歯学部第21回卒業生の水野博之先生に野口俊英歯学部部長(50年記念事業実行委員長)から賞状と記念品が贈呈された。メインテーマは学内・外に募集を呼びかけ、応募数30題の中から選定されたものである。

祝電披露が行われ、グリークラブによる校歌斉唱があり閉式した。

会場をホテル3階の那古の間に移して午後6時から祝賀会を開催した。出席者は、三ツツ名古屋アンサンブルによる生演奏に誘導され祝賀会場に入った。

小出忠孝学院長、大野榮人学長、野口俊英歯学部部長(50年記念事業実行委員長)の挨拶の後、来賓の大久保満男先生(日本歯科医師会会長)、宮村一弘先生(愛知歯科大学歯学部会長、川添義彬先生(大阪歯科大学学長)、石川直久先生(愛知医科大学学長)、田村康夫先生(朝日大学歯学部部長)の方々に祝辞をいただき、金子譲先生(東京歯科大学学長)による乾杯のご発声により祝宴に入った。来賓、歯学部同窓生、後援会会員、歯学部教職員、会社関係、報道関係など総勢570名が着席しての祝宴となった。

このほか、50年記念事業として「創立50年記念誌」を発刊し、50年記念切手シートも作製した。これらは記念事業に協賛いただいた方々に配布する。また、愛知学院大学歯学部創立50年記念奨学金を設け、学部学生各学年1名の計6名、大学院生各学年1名の計4名、合計10名に給付する。これを契機として、愛知学院大学歯学部の益々の発展を目指して教職員一同さらに努力を続ける所存である。

歯学部創立50年記念事業
実行副委員長 花村 肇

第8回全学FD研究会開催

愛知学院大学では平成15年にFD(ファカルティ・ディベロップメント)委員会を設置し、大学の2大機能である教育と研究の内、特に教育の充実をめざして、関連する他大学とも連携しながら、本学の大学教育の質的向上を図ることをめざして活動をしている。

その活動の一環として、12月14日(火)午後5時より日進キャンパス12号館G105教室において、第8回全学FD研究会が実施された。

今回の研究会では、従来外部講師を招き講演を聴講し、自らの教育方法の改善に努めていたが、今回は形式を変更し、「互いに教育上の悩みを共有し、解決への第一歩を」をテーマに、学生による授業評価、自己点検・自己評価の2つのアンケート結果や各学部での学生教育をめぐる諸問題を各学部FD委員より紹介し、教員が互いに問題点を共有し解決方法を一緒に考えていく事をめざした。



大野学長の開会の辞の後、前半では各学部のFD委員会で話し合われた内容が発表され、後半では各学部から提出された資料を基に参加の教員全体で提出された課題の解決方法について討議を進めた。当日は多数の教職員が参加し、本学の教育に生かせるよう活

第29回法学部学生法律討論会開催

法学部が法学部の学生を対象に行なっている学生法律討論会が、昨年11月11日(木)午前9時30分から日進キャンパス6501教室で開催された。この討論会は毎年実施され、今回で29回目となる。

高木敬一法学部長によるあいさつの後、事前に発表されている問題について、8名の立論者が各々の見解から意見を述べ、各立論者の発表の後、聴講の学生による質疑応答が行なわれた。

午後からは、講演会を挟んだ後、午後3時10分より討論会の成績発表・表彰式・講評があり閉会した。優勝者には学長杯・賞状、ならびに副賞として賞金3万円(図書券)・記念品が贈られた。受賞者は次のとおり。

優勝 横井 一樹(3年)
準優勝 伊藤祥一郎(2年)
3位 内田 翔太(4年) 桑澤 和輝(3年)



法学部主催講演会開催

11月11日(木)午後1時30分より、日進キャンパス6号館6501教室にて法学部主催講演会が開催された。この講演会は学生法律討論会と同じ日に開催された。

今回は、折本和司弁護士を招き、「医療と人権と司法」をテーマに講演が行われた。

講演はまず折本氏自身のなぜ弁護士になったかというキャリアデザインの紹介から始まり、現在の社会状況の中で将来の生活への不安が増大している医療のセーフティネットとしての医療と司法、また、医療裁判実務を通してより良い医療を実現するためには何



第7回 英語と日本語によるスピーチの祭典

新聞社、日進市国際交流協会、長久手町国際交流協会、(株)熊谷組のもと実施された。

当日は国際交流センター事務長の開会宣言のあと、引田国際交流センター所長の挨拶があり、英語レシーション部門7名、英語部門22名のスピーチが行なわれ、休憩の後、

留学生20名による日本語部門のスピーチが行なわれた。

終了後、場所を学院会館グ



12月4日(土)日進キャンパス・学院会館ホールにおいて、第7回英語と日本語によるスピーチの祭典が開催された。

この祭典は国際交流センター主催で行われ、後援に中日

- 【学長賞】
永谷朋未(文・国際文化2年)
李恩姫(経営研・修士2年)
- 【国際交流センター所長賞】
アメリカ・カルネリア(総合政策1年)
王森(経営研・修士2年)
- 【中日新聞社賞】
安藤優真(文・グローバル2年)
リュウ麗娜(経営研・修士1年)
- 【特別優秀賞】
牧野晋也(文・グローバル3年)
- 【長久手町国際交流協会賞】
松本沙夕(文・グローバル3年)
- 【日進市国際交流協会賞】
董勝(経営・経営4年)

2011年度入試スタート

本学の11年度入試は、10月17日に実施したアドミッション・オフィス(AO)入試でスタート。11月20日には推薦入試も終了し、いよいよ入試本番の時期となった。

一般入試(前期・中期日程)は、教科や配点、解答方式などが異なる4つの試験方式を設けている。一方、センター試験利用試験では歯学部以外は本学独自の試験を課さず、センターの試験の結果により合否判定する。

入学試験の詳細は、ホームページAGU Campus Naviの「入試情報」に掲載。入試種別ごとの特徴や対策などの情報を掲載。

各試験の実施学部・日程は表の通り。

愛知学院大学大学院 入試日程(問い合わせ: 大学院事務局)

研究科	出願期間	試験日
文学研究科・心身科学研究科・商学研究科 経営学研究科・法学研究科・総合政策研究科	2011年 1月18日(火)～1月26日(木) 締切日必着	2月8日(火) 文学研究科・心身科学研究科 法学研究科 2月9日(水) 商学研究科・経営学研究科 総合政策研究科
歯学研究科	2010年 12月13日(月)～2011年 1月6日(木) 締切日必着	1月17日(月)

愛知学院大学 入試日程(問い合わせ: 入試センター)

試験区分	学部・学科	出願期間	試験日
一般入試	文・心身科学・商 経営・法・総合政策学部	2011年 1月6日(木)～1月20日(木) 締切日必着	2月1日(火)～2月4日(金) [注1]
	薬学部		2月1日(火)・2月3日(木) [注1]
	歯学部		2月3日(木)
	短期大学部		2月1日(火)・2月2日(水) [注1]
	前期B 文・心身科学・商 経営・法・総合政策学部		2月3日(木)・2月4日(金) [注1]
	前期M 文・心身科学・商 経営・法・総合政策学部		2月5日(土)
「センター試験」 利用試験	中期 全学部全学科	2011年 1月17日(月)～2月3日(木) 締切日必着	2月14日(月)
	後期 全学部全学科	2011年 2月15日(火)～3月1日(火) 締切日必着	3月10日(木)
	「センター試験」 利用試験Ⅰ期 全学部全学科	2011年 1月6日(木)～1月20日(木) 締切日必着	大学入試 センター試験 1月15日(土) 1月16日(日)
「センター試験」 利用試験Ⅱ期	文・心身科学・商 経営・法・総合政策 薬・歯学部	2011年 2月15日(火)～3月1日(火) 締切日必着	実施しない 歯学部のみ 2月14日(月)
			実施しない 歯学部のみ 3月10日(木)

[注1]: 試験日は出願時に選択。試験日が異なれば、同一学科および他学科の併願可能。

鈴木 金弥 元心身科学部教授
二神 恭一 元経営学部教授
瑞宝中授章受賞

鈴木金弥元心身科学部教授、二神恭一元経営学部教授の2氏が長年の教育研究功勞により昨秋、瑞宝中授章を受けた。



鈴村教授は昭和3年5月20日生。同28年東京文理科大学教育学科心理学専攻卒業。同28年浜松市立高等学校教諭、同42年信州大学教育学部講師、同44年助教授、同51年教授。信州大学では教育学部長、同大学院教育学研究科長も歴任。信州大学名誉教授。平成5年より本学文学部心理学科教授として赴任され、平成17年3月まで本学で教鞭をとられた。本学では心理臨床・教育相談室長を歴任。



二神教授は昭和6年11月5日生。同30年早稲田大学第1商学部卒業、同32年同大学大学院商学研究科商学専攻修士課程修了、同35年同博士課程単位修得満期退学。同37年早稲田大学商学部専任講師、同39年助教授、同44年教授。早稲田大学ではシステム科学研究所所長、大学院商学研究科委員長などを歴任。早稲田大学名誉教授。平成10年より本学経営学部教授として赴任され、平成20年3月まで本学で教鞭をとられた。本学では大学院経営学研究科長など歴任。

図書館情報センター・日進市立図書館共催
柳田国男『遠野物語』発刊100周年記念
上映会と講演会を開催

本年4月に日進市と本学の包括協定が締結され、多方面において交流が深められつつあります。そこで今回、本学図書館情報センターでは、日

ワークも取材に来ており、後日、講演内容を12月20日から26日にスペシャル番組として計3回放映することであった。

他にも非常に珍しい映画フィルムを保存しており、これからも市民の皆さんに公開し、鑑賞していただけるよう継続して企画していきたいと考え

(図書館情報センター事務長
足立祐輔)

念して上映会と講演会を企画。去る11月9日（火）に日進市立図書館にて、丹羽館長の挨拶の後、16ミリ映画「柳田国男と遠野物語」を上映。引き続き、本学文学部、はやし林まこと淳教授による講演会が開催された。演題は「『遠野物語』とさんじん山人論」で林教授のユーモアとウィットに富んだ話に、会場いっぱい参加者（120名）は熱心に聞き入っていた。ケーブルテレビの中部ケーブルネットと「法隆寺献納宝物」の16ミリ映画を上映（参加者70名）。この「法隆寺献納宝物」のなかに取り上げている「百万塔陀羅尼」（本学図書館情報センター所蔵）を会場内に特別展示をし、鑑賞していただいた。この「百万塔陀羅尼」は重要文化財級のものであり、参加者から「現存する世界最古の印刷物を鑑賞することができた。」と非常に喜んでいただいた。

本学図書館情報センターは、



おやつカンパニー 経済産業大臣賞受賞

株式会社おやつカンパニーは、有名なベビースターラーメンを始め、菓子食品製造販売の企業です。代表取締役社長松田好旦氏は、本学商学部を昭和46年に卒業し、大学院商学研究科修士課程を昭和48年に修了されています。この度、輝かしい経済産業大臣賞を受賞されました。おめでとうございます。

おやつカンパニーは、「ブランドやキャラクター等を経

営戦略に活かして成長する企業」として高く評価され、知財功労賞を受賞し、経済産業大臣より平成22年10月18日表彰を受けました。経産省・特許庁は、産業財産権制度の普及促進・発展に貢献した個人・企業に対して、経産大臣・特許庁長官表彰を行っており、これを「知財功労賞」と呼称しています。

この度の経済産業大臣による表彰は、おやつカンパニー

受動喫煙防止キャンペーン

平成19年度から開始した「受
動喫煙防止キャンペーン」は
今年で4回目となりました。
今年も例年と同様に、10月25

と目立った場所での歩行喫煙
やたばこのポイ捨ては減りま
した。しかしながら、残念な
ことに一部の心ない学生が相

しての「学びの場」に相応しい環境作りに、今後とも学生と教職員がいっしょになって取り組んでいきたいと考えてい

教授が応対し、また、人間文化研究所嘱託研究員である馬場毅（愛知大学教授）も同席した。

懇談の後、図書館情報セン
ターを見学し、図書館設備や
蔵書に大変満足された。
11月20日(土)は、楠元キ

日(月)から大学祭を挟んでの2週間にわたって、昼休みの時間帯に揃いの黄色いジャンパーを着用し、学生と教職員がいっしょになって喫煙マナーの向上をアピールしました。参加者は昨年よりさらに増加し延513名に達し、タバコの煙や臭いのない爽やかな空気の中でキャンパス生活をおくりたいという気持ちも伝えました。

日進キャンパスでは、キャンペーン開始当初と比べます

變わらず他人の気持ちを理解できない喫煙行動をしています。そういった学生はゴミも平気で捨てる傾向にあります。その一方で、キャンペーンに参加した学生は、嫌な顔ひとつしないで吸い殻拾いやゴミ拾いを積極的に行ってくれました。卒業後に社会で活躍する姿が想像できて頼もしく感じました。

本学には多様な学生が入学してきます、社会に貢献できる人材を育成する教育機関と

三氏らは安藤充文学部長と

ヤンパスにおいて三氏による研究会が開催され、莫氏は「現在の台湾女性の権利拡大と福利政策」、黄氏は立法院選舉を中心に「台湾国会の政治的發展」、周氏は「台湾憲政体制改革とその影響」と題しそれぞれ講演が行われた。

長時間にわたる講演と質疑応答となったが、日本人の知らない台湾政治を知ることができ、また本学歴史学科東洋史大学院生等にとっても大変有意義な日となった。

前田惠學 名誉教授で逝去



前田惠學名譽教授が、去る10月31日ご逝去された。享年83歳。

誉教授、平成11年には長年の
教育研究功勞により勲二等瑞
宝章を授与された。また、正

先生は昭和22年第八高等学校文科甲類（旧制）卒業、同26年東京大学文学部哲学科（印
度哲学専攻）卒業、同29年東
京大学大学院特別研究生（研
究奨学生）前期修了。東海同
朋大学専任講師、東京大学文
学部助手、東海学園女子短期
大学教授、名城大学法学部教
授を経て、昭和47年4月に本

四位の叙位を授与された。

11月5日執り行われた告別式では、学友や研究者、海外から駆け付けた教え子ら多くの参列者が個人の死を悼み、先生の国際性豊かな学芸活動と業績に称賛を惜しまなかった。

ここに謹んで先生のご冥福をお祈り致します。

東呉大学人文社会学院院長ら本学を表敬訪問

平成22年11月18日(木)、東呉大学人文社会学院学院院长の莫藜藜氏、黄秀瑞政治学系の教授、台北国立大学公共事務学院院长の周育仁氏の三氏が本学に来訪した。本学では文学部歴史学科の東洋史を担当の西川孝雄客員教授と菊池一隆

面会し、莫氏からは本学文学部との学術・学生交流の希望が示され、安藤文学部長からも徐々にかつ着実に交流実績を積み重ねることが重要として、今後の連携を図りたいとお互いの交流を深めていきたいと答えた。



教授が応対し、また、人間文化研究所嘱託研究員である馬場毅（愛知大学教授）も同席した。

懇談の後、図書館情報セン
ターを見学し、図書館設備や
蔵書に大変満足された。
11月20日(土)は、楠元キ

平成22年度

クラブ優勝祝賀会開催

平成22年度クラブ優勝祝賀会が12月8日(水)に開催された。会場となった日進キャンパス・学院会館には、今年度(一部に前年度も含む)の間に課外活動において優秀な成績を収めた団体・個人のクラブ部員をはじめ、大学関係者、大学後援会本部役員など多数の参加者が集まった。

招待の対象となる団体・個人は、団体の部については日本代表、全日本選手権大会8位までに入賞、東日本・西日

本大会などの地方大会にて優勝・準優勝、中部・東海・県大会にて優勝となった団体、また個人の部では、団体の部と同等の基準のほか、最優秀選手賞やベストナイン等の受賞を受けた者など、それぞれの活動において顕著な成績を収めたものが選出され、今年度においては団体表彰29団体、個人表彰97名が対象。

開式に当たり小出忠孝学院長・大野榮人学長より学生諸君の健闘を讃える挨拶、青山

声による万歳三唱などが行われるなど、和やかな雰囲気の中で進行された後、閉会となった。

出席した各クラブの学生諸君については、部員一丸となつてさらなる成績の飛躍を目指すことを誓ってくれたものと思われる。



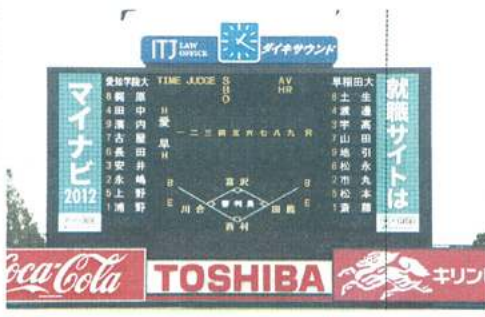
硬式野球部

3年連続15度目の

神宮大会進出

11月2日(火)瑞穂球場において、愛知・東海・北陸3連盟王座決定戦が行われ、北陸大学連盟1位の金沢学院大学に3-1で勝利し、3年連続15度目の神宮への切符を手にした。

ト1位リレー」で試合を進め、本学は惜しくも0-4で敗れた。

混声合唱団グリークラブ
全日本大学駅伝開会式に出演

今年も本学混声合唱団グリークラブが、11月6日(土)に朝日新聞社名古屋本社で行われた、秩父宮賜杯第42回全日本大学駅伝対校選手権大会の開会式に出演した。そこで全国各地の予選を勝ち抜いてきた精鋭25大学の選手、監督達らが翌日の大会に向けて緊張した面持ちの中、日本学生陸上競技連合会指定のテーマソ



この駅伝は大学駅伝日本一を競う大会であり、箱根駅伝出雲駅伝とともに学生三大駅伝と呼ばれている。こうした名誉あるスポーツイベントの開会式に招かれ、演奏する機会を与えられていることは、当合唱団が地道に活動してきた成果であり、その功績は大きい。

当合唱団は昭和30年にグリークラブ(男声合唱団)として創部され、55年の歴史を持つ文化系クラブでは最も伝統のある団体である。平成19年度より混声合唱団となり、現在、夏と春に演奏会を開催している。本年度は平成23年2月20日(日)に電気文化会館ザ・コンサートホールにて第46回演奏会を開催することになっている。

平成23年度
愛知学院大学開放講座
2月14日から受講受付開始

地域や社会に向けて、大学の「知的財産」を広く還元するため、各学部・学科で開講している授業科目を一般社会人に開放し、興味や目的に合わせて自由に受講できる講座を開講している。

平成23年度の開放講座の出願期間は2月14日(月)から26日(土)で、募集人員は科目ごとに制限人数が定められている。受講資格として、高等学校を卒業した方、または本学が同等以上の学力があると認めた方で、聴講料は1科目1万円(半期)。聴講決定は3月9日(水)で、3月31日(木)オリエンテーションを予定。

講座の詳細を記載した案内のご請求は、
愛知学院大学教務課「開放講座」係
(☎0561-73-1111)までお問い合わせください。

著書紹介



『社会化の心理学／ハンドブック：人間形成への多様な接近』
菊池章夫・二宮克美・堀毛一也・斎藤耕二(編著)

本書は、社会化という概念をめぐって、これまでの2回の試み(1974・1990)を受け継ぎ、新たに編集された3回目のハンドブックである。副題にあるように、人間形成への多様な接近に関する全6部・27章から構成されており、総ページ450を超える最新のハンドブックである。編者ならびに執筆として、総合政策学部の二宮克美教授がかかわっている。川島書店刊。4,200円(税別)。

『本居宣長の研究』

岡田千昭著

本書は、九州大学に提出した学位論文であり、国学の大成者・本居宣長の思想構造を解明したものである。「道の学問」としての宣長学の特質を「御任(ミヨサシ)論＝国学の大政委任論や、古道説の中核概念である「妙理」の説として把握・解析したものである。巻末に詳細な「本居宣長研究文献目録」を掲載している。

著者は教養部の岡田千昭教授。吉川弘文館刊。本体22,000円(税別)

東海大地震に備え地震災害避難訓練を実施

11月25日(木) 12時20分より13時まで、日進キャンパス



において地震災害避難訓練が実施された。

当日12時20分に学内放送で地震発生時の全館放送と同時に約4千名の学生・教職員が参加し、授業中の学生や業務中の教職員が一斉に第1・2・3避難場所へ避難を開始し、一部の通路で渋滞も起きたが、事前に訓練実施が通達されていたこともあり、担当の教職員が誘導にあたり、指定避難場所に12時40分に無事移動し、避難訓練が終了した。

注意点などの説明が各避難場所であり、最後に大野榮人学長、竹市良成教務部長、小林秀一教養部教授よりそれぞれ各避難場所にて講評があり、13時にはすべての訓練が終了した。

日進キャンパスは日進市の災害時の一時避難場所として指定されており、クラッカーや水、毛布なども大量に備蓄し、万一の災害に備え防災体制の確立に努めている。常日頃からの地震に対する警戒を意識し、いつ来てもおかしくない東海大地震から身を守るよう各自の意識の向上を図ってほしい。

